

小平市公共施設マネジメントニュース

平成30年12月号

第1部 第2回 中央・小川デザインカフェ ～次の世代の施設を考えよう～

将来の人口減少、少子・高齢化など、公共施設を取り巻く環境が変化する中、市ではこれからの公共施設のあり方等について取組む公共施設マネジメントを推進しています。

中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館・西部市民センター・小平元気村おがわ東の複合化など基本計画の策定を、市民参加で進めています。

中央・小川デザインカフェ（ワークショップ形式）では、参加者同士でリラックスした雰囲気の中、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアの各テーマについてアイデアを出していきます。

市では、市民参加などを経て平成31年秋を目途に新しい公共施設に関する基本計画を策定する予定です。

【参加状況】平成30年12月2日（日）

① 中央公民館周辺エリア：中央公民館 学習室4	14時～16時	17名
② 小川駅周辺エリア：小川西町公民館 ホール	10時～正午	15名

【中央デザインカフェ】



テーマ：誰もが使いやすい公共空間を考えよう
全体進行：前回のグループ意見などの振り返りを行い参加メンバーで情報共有した後に、3つのワークテーマについて意見交換やアイデアを出し、グループごとに発表を行いました。
ワーク①：自分たちにとっての「居心地の良い場所」について考えよう
ワーク②：「居心地の良い場所」に、なかなかいない人、どうしていないのかを考えよう
ワーク③：中央エリアにおける「居心地の良い場所」はどこだろう、どうしたら居心地がよくなるかを考えよう

【小川デザインカフェ】



テーマ：公共スペースのあり方を考えよう①
全体進行：前回のグループ意見などの振り返りを行い参加メンバーで情報共有した後に、2つのワークテーマについて意見交換やアイデアを出し、グループごとに発表を行いました。
ワーク①：各グループで3つの機能（図書館・公民館・広めの多目的室）のコンセプトを考えよう
ワーク②：各グループから出たコンセプトを1つにした図書館・公民館・広めの多目的室のあり方を考えよう（※発表なし）
宿題：次回までに、あり方を実現するための3つの機能の配置案（ゾーニング程度）を各自で考える

各グループの主な意見は裏面にまとめているので、ご覧ください。



主 な 意 見

【中央デザインカフェ「誰もが使いやすい公共空間を考えよう」】

「このエリアで居心地の良い場所」、「このエリアで見かけない人」、「どうしたら居心地が良くなるか」

Aグループ

- ・中央エリアで見かけない人は、実は「いない」のではなく、見た目では分からないけれど、困っている人がいるのではないか。
- ・障がい者にとっても居心地の良い場所、コミュニケーションができる場を設けてはどうか。
- ・障がい者支援関連の機能を使い勝手やコミュニケーションの観点も踏まえて、複合化をしてはどうか。

Bグループ

- ・「居心地が良い場所」として、公民館ロビー、WiFi、自然などの癒しの場があることが挙げられる。
- ・学生にとっては自由に使える自習室があると居心地が良いのではないか。
- ・情報を知らない人、交通の便が悪いことが理由で来られない人がいるはずである。
- ・仲間と繋がれる空間の整備やインターネット環境の改善が必要ではないか。

Cグループ

- ・「居心地が良い場所」として、図書館、公民館、ホールやロビーなどが挙げられる。
- ・平日仕事をしている人、学生、障がい者などはあまり見かけない。
- ・施設と外にある自然とをつなぐ空間、飲食できるロビー、バリアフリーで障がい者も使いやすく、若者を呼び込めるように自習やダンスができるスペースを設けてはどうか。

Dグループ

- ・「居心地の良い場所」として、公民館、市役所、電車が見える場所、緑のある場所が挙げられた。
- ・障がい者、若者、働き世代、高齢者は、あまり見かけない。ただし、平日・休日・時間帯等によって変化する。極論だが、見かけない人は「まだ生まれていない世代」という話題が出た。
- ・居心地良くしていくため、ハード面ではバリアフリー化、ソフト面ではサポートが必要な方に対する人の充実をしてはどうか。

【小川デザインカフェ「公共スペースのあり方を考えよう①」】

「図書館機能、公民館機能、広めの多目的室機能のコンセプトは」

Aグループ

- ・「本がつながる地域」…図書館機能と他の機能を完全に分けてしまうのではなく、施設全体に緩やかに図書館機能につながるイメージではどうか。レファレンス機能もあり「ここに来れば何かがある」というわくわくの場になるのではないか。
- ・「多様に利用できる空間」…「使う人が使い方を考えられる空間」はどうか。プロジェクター、畳、キッチン、椅子、机など、備品として様々に用意することによって、映画を見たり、交流の場に活用できるなど、空間に多様性が生まれるのではないか。

Bグループ

- ・「テクノロジー・エンターテイメント・デザイン」…様々なことに意識の高い人に対して、情報を提供できる場であると、より意識の高い人が住みやすく活発になるのではないか。
- ・「子どものための図書館」…もっと子どもが学べる場が必要であり、子どもに特化するのも良いのではないか。
- ・「フリーダムな公民館」…用途を決めて整備するのではなく、間仕切りを用いて、会議室や多目的室など様々な活用できるようにするのが良いのではないか。

Cグループ

- ・「住民の居場所としてくつろげて、視聴覚で訴えかける図書館」…住民がくつろぎ、専門書なども読め、視聴覚で楽しめて学びがある図書館であると良いのではないか。
- ・「気軽に誰でも利用できる公民館」…社会教育の講座、市民の話題となるものが提供でき、行政機能もあり楽しく皆が集まると良いのではないか。
- ・「気軽に利用できて行きたくなる広めの多目的室」…使用する用途に応じて使えることで、魅力が高まるのではないか。

Dグループ

- ・「情報と絆の交差点(店)」…「交差点」とは、情報と絆が交わる場所という意味と「店」とも置き換えられるように、商店街のようなコミュニケーションの場にもなると良いのではないか。市民が誰とでもつながれるような場になってほしい。
- ・誰でも来てゆっくりできること、開かれた場であること、多様に使える場であることなどが大事ではないか。

【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課

〒187-8701 小平市小川町 2-1333 TEL042-346-9557 FAX042-346-9513

メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp

